

平成30年度プレイリーダー研修2級兼第1回青年リーダー南筑後地域研修会 報告

担当：海谷

1 趣 旨	子どもの体験活動を支援するための専門的な知識・技術と子どもとの基本的なかかわり方の習得を図る
2 対象者	子ども会や放課後児童クラブの指導者、市町社会教育課職員、大学生、高校生（47名） 欠席4名
3 期 日	平成30年7月1日（日）
4 場 所	広川町町民交流センター「いこっと」
5 内 容	【研修Ⅰ】「プレイリーダーの意義と役割」 南筑後教育事務所 社会教育室社会教育主事補 海谷 浩介 【研修Ⅱ】「子どもの安全管理」 国立諫早青少年自然の家 企画指導専門職 原 将成 【研修Ⅲ】「子どもと体験活動」 国立諫早青少年自然の家 企画指導専門職 原 将成

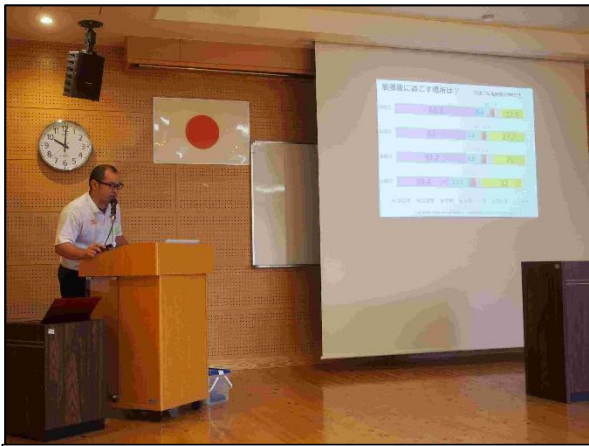
6 評 価

（1） アンケートから （アンケート回収45名、未提出2名）

評価項目		4	3	2	1	平均
総合評価		43	2	0	0	3.9
◆研修Ⅰについて ○子どもの過ごし方等についてのデータが参考になった。 ○プレイリーダーとは何か役割について知ることができた。 ●受講者が発言できるように工夫してほしかった。 ◆研修Ⅱについて ○安全管理する上で、子どもたちと一緒に考えることが重要だと思いました。 ○自由な時間ほど危険が潜んでいることがわかった。参考にしたい。 ●もう少し危険性の具体例を教えてほしかった。 ●リスクマネジメントを常に想定することが必要だと感じた。 ◆研修Ⅲについて ○体験をするだけではなく、振り返りが一番重要なことだとわかった。 ○生活体験活動や自然体験活動の必要性が理解できた。 ●資料の中にアイスブレイクの詳細を載せてほしかった。 ◆全体を通して ○子どもの接し方や実態について多くのことを学んだが、色々なものに生かせると思いました。 ○集団の中で意見を発言することが苦手でも今日大変だったけどグループや講師の方々のおかげで楽しく活動することができました。 ○我々大人が子ども達にいかに関心を合わせていくかということが必要だと感じた。 ●活動の最初に自己紹介の時間が必要だと感じた。						

（2） 成果と課題

- 活動中の怪我や熱中症等が起きることなく終了することができた。来年度も空調設備がある施設を使用。
- 子どもの体験活動中の安全管理について概ね理解していただけた。
- 受講者が、アイスブレイクやイニシアティブゲームを班に分かれて体験することで、多くの種類のゲームの行い方を周知することができた。また、仲間づくりを意識した活動内容であった。
- イニシアティブゲームの最後に振り返りの時間（ビーイング）を行ったことで班での気づきや学び成長を共有することができた。
- 研修の最初に自己紹介の時間を設ける必要性があった。
- アンケートからレクレーション等の活動を振り返る資料が欲しかったという記入が2つあったため、来年度は講師に資料提供を依頼する必要がある。



研修Ⅰプレイリーダーの意義と役割の説明



班で振り返り（ビーング）をしているところ



振り返り終了後